

# 環境経営レポート

(2020年4月1日～2021年3月31日)



2021年6月30日作成  
アドバンテック東洋株式会社

# 目 次

	(ページ)
I. 環境経営方針	1
II. 事業の概要	2
III. 環境経営方針および目標	3
IV. 主要な環境経営計画の概要-環境保全に向けた具体的な取組み	5
V. 環境経営の取組み結果および次年度の取組み	6
VI. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無	10
VII. 代表者による評価、見直しの結果および次年度の方針・目標	11

## I. 環境経営方針

当社は、「人、地球、科学技術のすばらしい共存を目指して」のスローガンを掲げ、環境保全を今後の事業活動における重要課題の一つと認識し、以下の環境方針を定め、環境を守るための活動を行なう。

1. 事業活動における、エネルギー消費量の節減に努力する。
2. 省資源活動としてのリサイクル活動を積極的に推進し、廃棄物の削減を目指す。
3. グリーン購入を推奨する。
4. 環境保全に関する法令等を遵守し、社会情勢の変化に対応して行く。
5. 全社員に社内教育を定期的に行い、環境保全の意識を向上させる。
6. 環境保全プログラムを作成し、全社一丸となり推進して行く。
7. 環境にやさしい製品の販売に努めると共に、事業活動において環境負荷の低減に努める。

2005年3月20日制定  
2020年4月 1日改定  
アドバンテック東洋株式会社  
代表取締役社長

戸部 浩介

## II. 事業の概要

### 1) 事業所名および代表者名

アドバンテック東洋株式会社  
代表取締役社長 戸部 浩介

### 2) 所在地

本 社：東京都千代田区内幸町二丁目 2 - 3 日比谷国際ビル 5階

事業所：札幌営業所(札幌市北区)・仙台営業所(仙台市青葉区)・盛岡出張所(盛岡市)・  
筑波営業所(つくば市)・宇都宮営業所(宇都宮市)・大宮営業所(さいたま市大宮区)・  
千葉営業所(千葉市中央区)・柏営業所(柏市)・東京営業所(台東区)・西東京営業所  
(八王子市)・横浜営業所(横浜市神奈川区)・新潟営業所(新潟市中央区)・  
富山営業所(富山市)・静岡営業所(静岡市葵区)・名古屋営業所(名古屋市東区)・  
四日市営業所(四日市市)・京都営業所(京都市南区)・大阪営業所(大阪市中央区)・  
神戸営業所(神戸市中央区)・岡山営業所(岡山市北区)・広島営業所(広島市中区)・  
徳山営業所(周南市)・高松営業所(高松市)・北九州営業所(北九州市小倉北区)・  
福岡営業所(福岡市博多区)・大分営業所(大分市)  
東京商品センター(八潮市)・大阪商品センター/第2大阪商品センター(東大阪市)  
(合計29事業所)

### 3) 環境保全関係の責任者および担当者の連絡先

責任者 総務部長 安西 恒久  
担当者 総務部 藤田 健志(事務局)  
連絡先 電 話 03-5521-2161  
FAX 03-5521-2162

### 4) 事業の内容

①濾紙、濾過製品販売

②理化学機器販売

事業規模

活動規模	2021年3月末	単 位
売上高	19,573	百万円
従業員数	300	人

### 5) 認証登録対象

全事業所、全業務が認証登録の対象

### Ⅲ. 環境経営方針および目標

#### 1) 2020年度の環境経営方針

- (1) CO<sub>2</sub>総排出量削減
  - ①自動車による環境負荷の削減
  - ②電力/ガス消費の削減
- (2) 走行距離1km当りのCO<sub>2</sub>排出量の削減
- (3) 廃棄物量の削減
- (4) 再生率の維持・向上
- (5) 水使用量の維持・削減
- (6) 事業活動における環境負荷の削減（適正在庫の維持）

#### 2) 2020年度の環境経営目標

- (1) CO<sub>2</sub>総排出量 : 2019年度実績より1%削減
  - ①自動車による環境負荷の削減 : 2019年度実績より1%削減
  - ②電力/ガス消費の削減 : 2019年度実績より1%削減
- (2) 走行距離1km当りのCO<sub>2</sub>排出量の削減 : 2019年度実績より1%削減
- (3) 廃棄物量の削減 : 2019年度実績より1%削減
- (4) 再生率の維持・向上 : 2019年度実績を維持・向上
- (5) 水使用量の維持・削減 : 2019年度実績を維持・削減
- (6) 事業活動における環境負荷の削減 : 適正在庫の維持 3.7±0.3か月

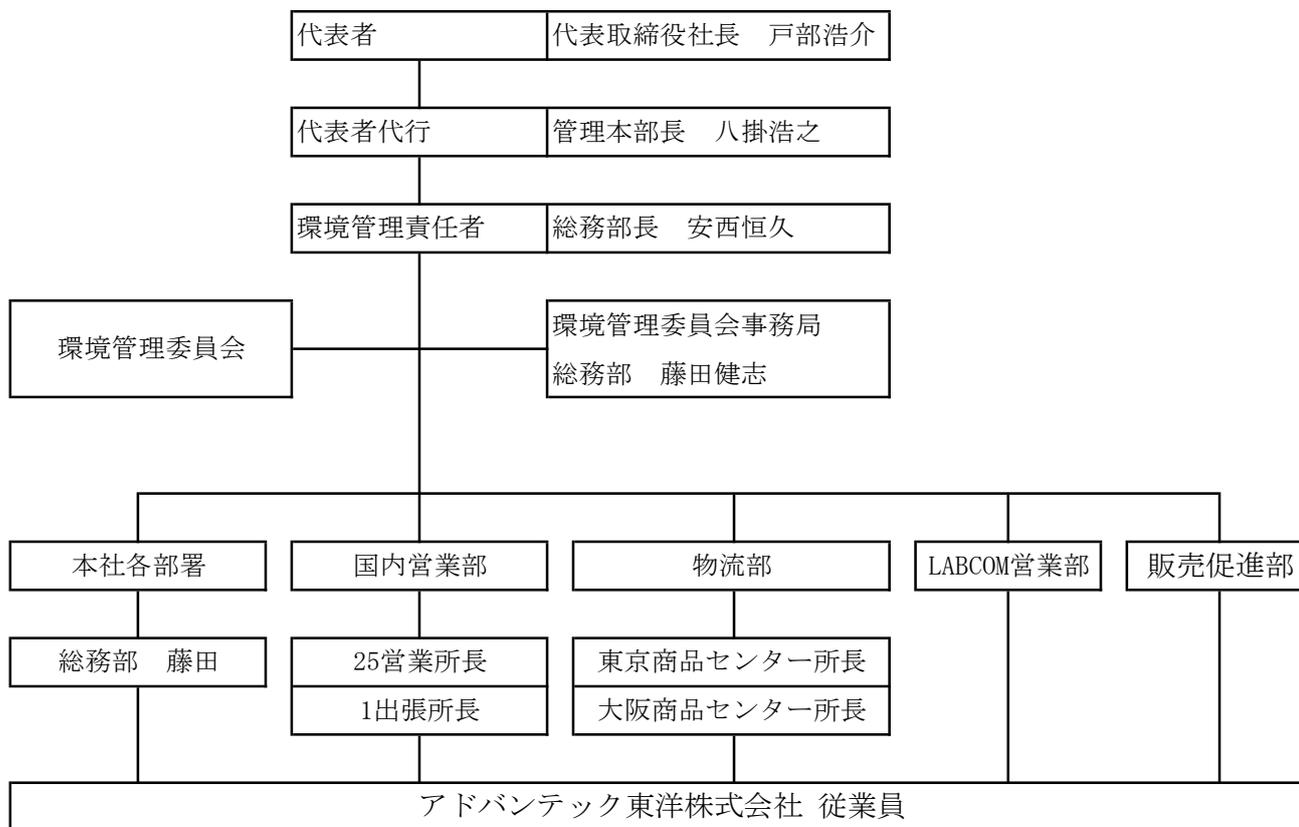
#### 3) 目標値

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 目標	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標
(1) CO <sub>2</sub> 総排出量 CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> )	621,264	545,790	540,332	534,929	529,580	524,284
①CO <sub>2</sub> 車輜 (kg-CO <sub>2</sub> )	390,373	318,241	315,058	311,907	308,788	305,700
②CO <sub>2</sub> 電気、ガス等 (kg-CO <sub>2</sub> )	230,891	227,549	225,274	223,021	220,791	218,583
(2) 走行距離1km当りのCO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /km)	0.189	0.184	0.182	0.180	0.178	0.176
(3) 廃棄物量 (kg)	66,575	59,702	59,105	58,514	57,929	57,350
(4) 再生率 (%)	74	73	73	73	73	73
(5) 上水道 (m <sup>3</sup> )	3,077	3,048	3,048	3,048	3,048	3,048
(6) 事業活動における環境負荷の削減 適正在庫月数の維持 (か月)	3.1	3.7	3.7±0.3	3.7±0.3	3.7±0.3	3.7±0.3

排出係数: CO<sub>2</sub>(ガソリンkg-CO<sub>2</sub>)×2.32、CO<sub>2</sub>(軽油kg-CO<sub>2</sub>)×2.58、CO<sub>2</sub>(電気kg-CO<sub>2</sub>)×0.4353133※  
 ※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、事業所所在地の電力会社排出係数平均値

#### 4) 環境管理推進体制

2021年4月1日改定  
(2006年10月11日制定)



#### [役割]

- 1) 代表者および代表者代行
  - ①環境方針の制定および改訂
  - ②環境目標の承認
  - ③環境管理責任者の任命および役割の指示
  - ④環境管理システム運営に必要な経営資源(人、物、金)の投入
- 2) 環境管理責任者
  - ①環境マネジメント活動システムの構築および運用の統括
  - ②環境マネジメント活動に関する啓発と教育の推進
  - ③環境マネジメント活動実施状況の記録、検証の指示並びに代表者への報告
  - ④環境管理委員会の総括
- 3) 環境管理委員会(事務局)
  - ①環境管理責任者の補佐および環境マネジメント活動の構築推進業務
  - ②環境マネジメント活動の部署内への周知
  - ③環境マネジメント活動内容の構築、見直し時の部門間調整
  - ④環境マネジメント活動に関する社内および社外窓口業務の担当
  - ⑤環境マネジメント活動推進のための事務、運営
- 4) 環境管理推進委員
  - ①部門における、環境マネジメント活動の具体的な施策推進責任者
  - ②部門における、環境マネジメント活動状況の報告
- 5) アドバンテック東洋株式会社従業員
  - ①所属部署における環境マネジメント活動の遂行

## IV. 主要な環境経営計画の概要—環境保全に向けた具体的な取組み

### 1. CO<sub>2</sub>排出量

#### (1) 自動車による環境負荷の削減

① 無駄なアイドリング、アクセルむらのない運転をする。
② 急発進しない、急ブレーキをかけない優しい運転をする。
③ 惰行運転や、オートマチック車特有のクリーピング現象を利用、活用する。
④ 事前計画に基づく効率的な営業・訪問活動を行うことにより、走行距離の短縮を図る。
⑤ タイヤ空気圧の適正化により、燃費の削減を図る。
⑥ 不要の重い荷物は車より降ろして軽量化、燃費の削減を図る。
⑦ 軽油車切替の際は、ガソリン車または低公害車に切替える。(3台切替実施)
⑧ 新車切替の際は、低公害車、低燃費車に切替える。(合計18台切替実施)
⑨ リース車両運用の見直し、削減を図る。(前年度比3台削減)

- ・低公害車、低燃費車への切替えの促進と効率的な車両の運用を推進し、走行距離1km当りのCO<sub>2</sub>排出量の目標を達成した(燃料10あたりの走行距離11.80km⇒14.12km)。
- ・ハイブリッド車への切替：新車切替18台中7台(全車に占める割合13%⇒19%)。
- ・車両総数：2020年3月末 132台、2021年3月末 129台で年間3台減少。

#### (2) 電力/ガス消費の削減

① 室内温度は、夏は28℃±1℃、冬は21℃±1℃に設定する。
② 照明は消費電力の少ない機種(LED)に順次切替える。
③ 使用しない箇所の照明、昼休み等における不必要な照明は消灯する。
④ 夏は、日光を極力遮断し冷房効率を高める。
⑤ O A機器切替の際は、省エネタイプ機器の導入に努める。
⑥ 節電対策の一環として、照明器具(蛍光灯)を間引きする。
⑦ 離席中のPC電源オフ、モニター電源オフに努める。

- ・室内温度管理の徹底を図るため、室内温度を原則夏は28℃±1℃・冬は21℃±1℃の範囲にするよう設定、通達し管理を行なっている。

### 2. 廃棄物量の削減および再生率の向上

① 縮小コピー、両面コピー、PDFの利用を増やす。
② 使用済封筒の再利用を進める。(社内便等への再利用)
③ 書き損じた紙はメモ用紙等として再利用する。
④ 書類の電子化を促進し印刷物(紙類)を削減する。
⑤ 紙類の分別回収による再資源化を推進する。
⑥ 段ボールなど梱包資材の再利用を推進する。
⑦ 保管文書の削減、ペーパーレス化を推進し紙の使用量(廃棄量)を削減する。

- ・廃棄物量は年度目標比22.3%減少し削減目標達成。
- ・ペーパーレス化の推進により、本社での2020年度コピー紙(A4サイズ)使用量は本社移転前と比較して約半分に減少(372千枚⇒191千枚)。
- ・本社では紙類の分別回収を行い、再資源化を継続実施している。  
また、営業所等でも再資源化への取組を積極的に推進している。

### 3. 水使用量の削減

① トイレの流水量を最少にする。
② 流水使用は必要最小限とすることを徹底する。(新型コロナウイルス感染症対策の手洗い等を除く)
③ こまめに節水する。

- ・トイレの流水量を最少にすることや、新型コロナウイルス感染症対策の手洗い等を除いて、流水使用を必要最小限とするよう周知、指導するなど、節水を推進している。

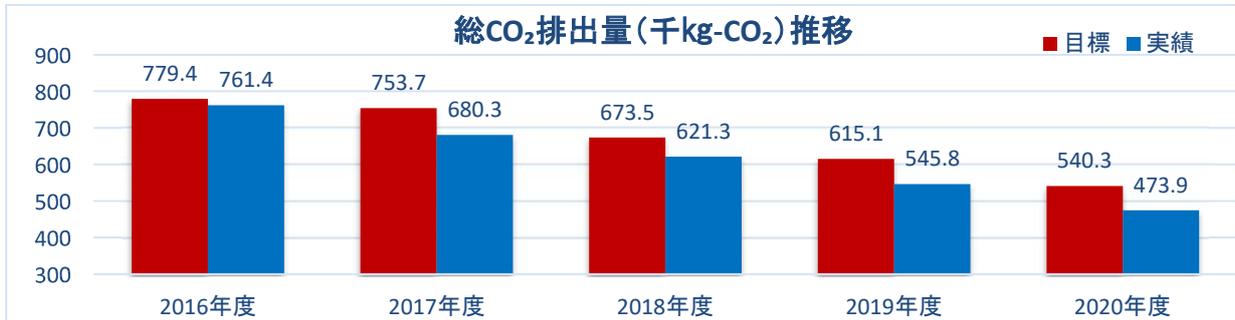
### 4. 事業活動における環境負荷の削減

① 過剰な在庫とならないよう出荷動向を調査の上、工場と密に連携をとる。
-------------------------------------

## V. 環境経営の取組み結果および次年度の取組み

### 1) 今年度の取組み結果

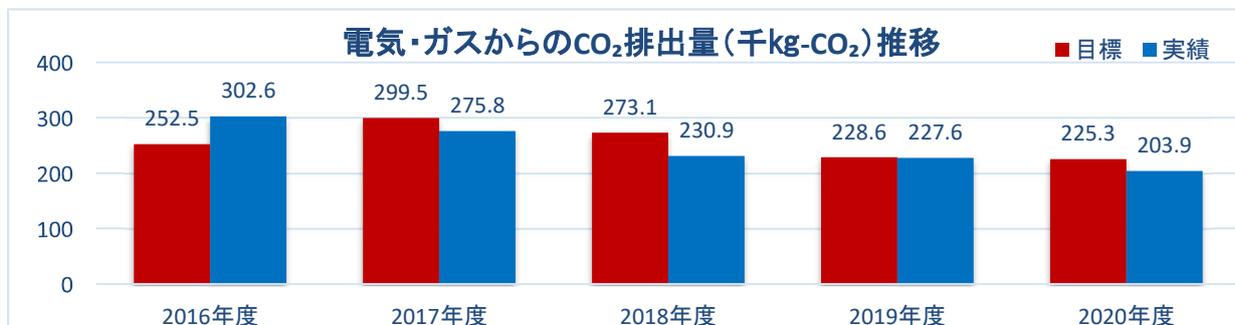
- CO<sub>2</sub>総排出量削減（車両管理および節電対策）に向けた具体的取組み
  - 車両変更：2020年度中の新車切替18台、内7台はハイブリッド車に切替え。  
車両削減：2020年3月末132台、2021年3月末129台で年間3台減少。
  - 節電対策：クールビズ実施に係る通達(2020年4月22日)。
- 内部監査の実施  
定期的に事業所の取組み状況を確認し、取組んでいることを確認。



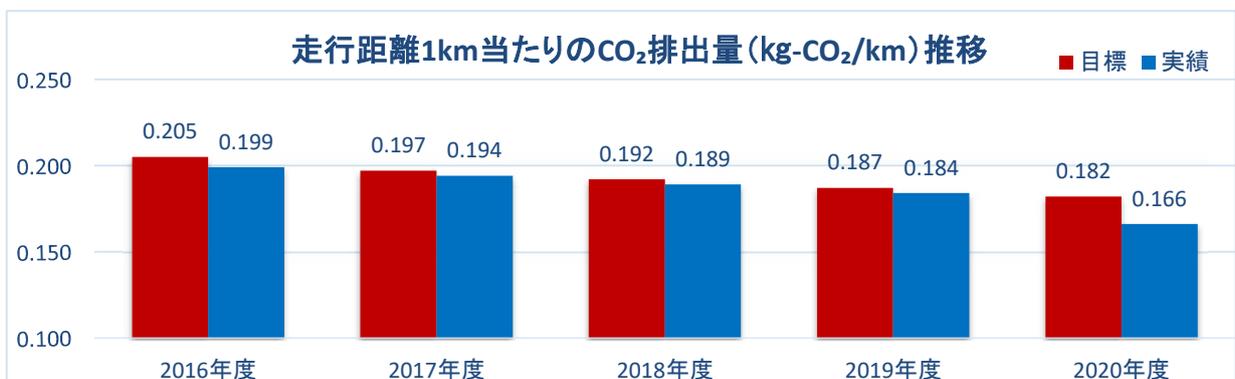
- 目標比：▲66.4千kg-CO<sub>2</sub> (12.3%)、目標を達成。
- 前年実績比：▲71.9千kg-CO<sub>2</sub> (13.2%)。



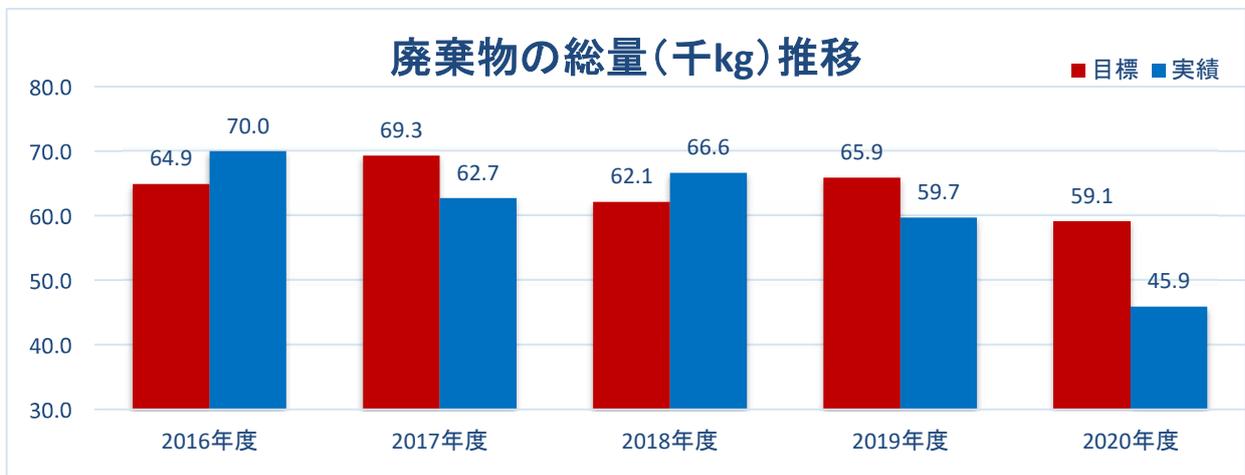
- 目標比：▲45.0千kg-CO<sub>2</sub> (14.3%)、目標を達成。
- 前年実績比：▲48.1千kg-CO<sub>2</sub> (15.1%)。



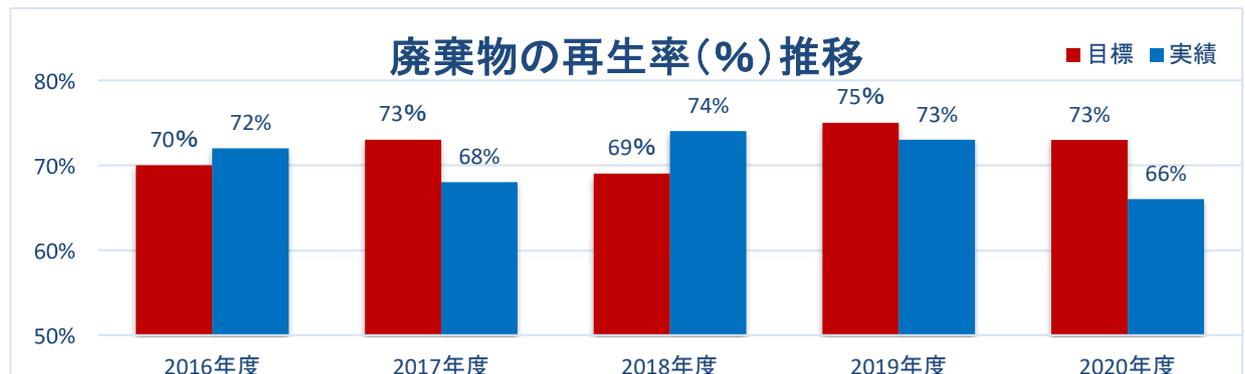
- 目標比：▲21.4千kg-CO<sub>2</sub> (9.5%)、目標を達成。
- 前年実績比：▲23.7千kg-CO<sub>2</sub> (10.4%)。



- 目標比：▲0.016(kg-CO<sub>2</sub>/km) (8.8%)、目標を達成。
- 前年実績比：▲0.018(kg-CO<sub>2</sub>/km) (9.8%)。
- 燃料1ℓあたりの走行距離：14.12km(前年比+2.32km = +19.7%)。



- ・目標比：▲13.2千kg(22.3%)、目標達成。
- ・前年実績比：▲13.8千kg(23.1%)。



- ・目標比：▲9.6%(▲7pts.)、目標未達成。  
廃棄物量全体の中で、特に紙文書(再生廃棄物)が減少したため再生率が減少。
- ・前年実績比：▲9.6%(▲7pts.)。



- ・目標比：▲57m³(1.9%)、目標達成。
- ・前年実績比：▲57m³(1.9%)。

#### 事業活動における環境負荷の削減(在庫月数)

- ・2021年3月31日時点の在庫月数：3.8か月
- ・製品在庫月数は、当初目標の範囲内に収まり目標達成。

#### 取組み実績 まとめ

項目	単位	実績	目標	目標比	前年	前年比	目標達成状況
(1) CO <sub>2</sub> 総排出量	(kg-CO <sub>2</sub> )	473,922	540,332	△66,410(12.3%減)	545,790	△71,868(13.2%減)	目標達成
① 自動車 CO <sub>2</sub> 排出量	(kg-CO <sub>2</sub> )	270,057	315,058	△45,001(14.3%減)	318,241	△48,184(15.1%減)	目標達成
② 電気/ガス CO <sub>2</sub> 排出量	(kg-CO <sub>2</sub> )	203,865	225,274	△21,409(9.5%減)	227,549	△23,684(10.4%減)	目標達成
(2) 自動車 走行距離当たりCO <sub>2</sub>	(kg-CO <sub>2</sub> /km)	0.166	0.182	△0.016(8.8%減)	0.184	△0.018(9.8%減)	目標達成
(3) 廃棄物 総排出量	(kg)	45,931	59,105	△13,174(22.3%減)	59,702	△13,771(23.1%減)	目標達成
(4) 再生率	(%)	66	73	△7pts.(9.6%減)	73	△7pts.(9.6%減)	目標未達成
(5) 水 使用量	(m³)	2,991	3,048	△57(1.9%減)	3,048	△57(1.9%減)	目標達成
(6) 適正在庫月数	(か月)	3.8	3.7±0.3	0.1増	3.7	0.1増	目標達成

## 2) 次年度の取組み

### (1) CO<sub>2</sub>排出量の削減

#### ・自動車による環境負荷の低減

##### ①ハイブリッド車・低燃費車の導入促進

新車切替に際しては、ハイブリッド車や低燃費車を積極的に導入する。

##### ②公共交通機関、レンタカー、カーシェアリングを活用した営業の効率化

顧客訪問の際は、公共交通機関およびレンタカー、カーシェアリングを活用した移動を行うことで、社用車の使用を抑制しCO<sub>2</sub>排出量を削減する。

##### ③事業所移転・統合による営業の効率化

顧客の訪問において、立地条件の良くない事業所の移転・統合を検討、実施する。

移転・統合により業務の効率化を進めて社用車を削減し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図る。

#### ・電力/ガス消費の削減

##### ①取組施策

室内温度を、夏は28℃±1℃、冬は21℃±1℃に設定する。

人がいない箇所、使用していない部屋などの消灯を徹底する。

ICカードによる残業（勤怠）管理の徹底およびリフレッシュデー（ノー残業デー）の実施を徹底し、仕事の効率化を進め事業所での電気/ガスの使用を抑制する。

##### ②省エネ機器の導入

事業所の移転や改修の際には、照明をLED化、節電型機器を導入し電力消費の削減を図る。

### (2) 廃棄量の削減および再生率の向上

#### ①不良在庫の発生防止と活用

在庫管理規程の遵守事項徹底、販売不能品の再利用促進を図る。

（デモ機へ転用、グループ会社への販売など）

#### ②誤ピックアップおよび誤出荷の削減、撲滅

誤出荷の発生作業、原因を分析し、業務方法を改善する。

#### ③リサイクル、リユースの推進

段ボール、エアパッキンなどの梱包材への再利用など促進する。

#### ④グループ全体でのデータ共有の推進

各部署で発行・管理する通知、通達・回覧文書、製品の取扱説明書などをグループウェアにより共有化する。また承認を要する書類をワークフローにより効率化、ペーパーレス化することで、より一層の紙媒体の削減、廃棄物の削減を推進する。

#### ⑤保管文書の削減、スリム化の推進

文書保存期間を遵守、徹底して、保存期間経過後の不要文書の廃棄を促進し、保管文書のスリム化を図る。

#### ⑥再生率の向上

紙類、ペットボトル、その他の廃棄物について、分別を徹底し可能な限り再生廃棄物として排出し、非再生廃棄物の排出量を削減して再生率の向上を図る。

### (3) 水使用量の低減

各事業所におけるこまめな節水活動を通じて、水使用量を削減する。

### (4) 事業活動における環境負荷の削減

適正在庫を維持し、保管・管理の無駄を削減する。

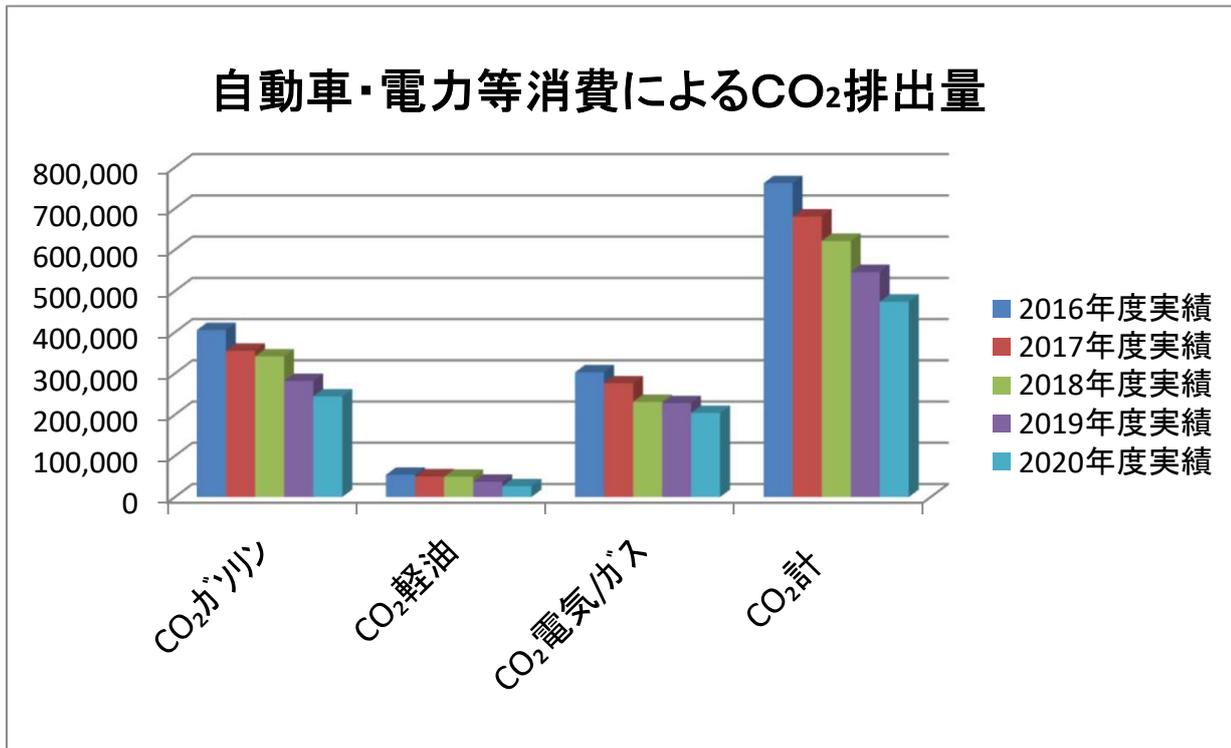
### (5) 新型コロナウイルス感染症対策の継続実施

新型コロナウイルス感染症の流行が続いているため、テレワークや時差出勤体制を継続実施することと併せて、職場における感染防止対策の周知徹底を図り従業員の感染リスクを低減する（入社時の体温チェック、入室時の手の消毒、ドアノブなど手を触れる箇所の定期消毒、マスクの着用、座席（作業デスク）の分散、間仕切り板の設置、など）。

<資料>

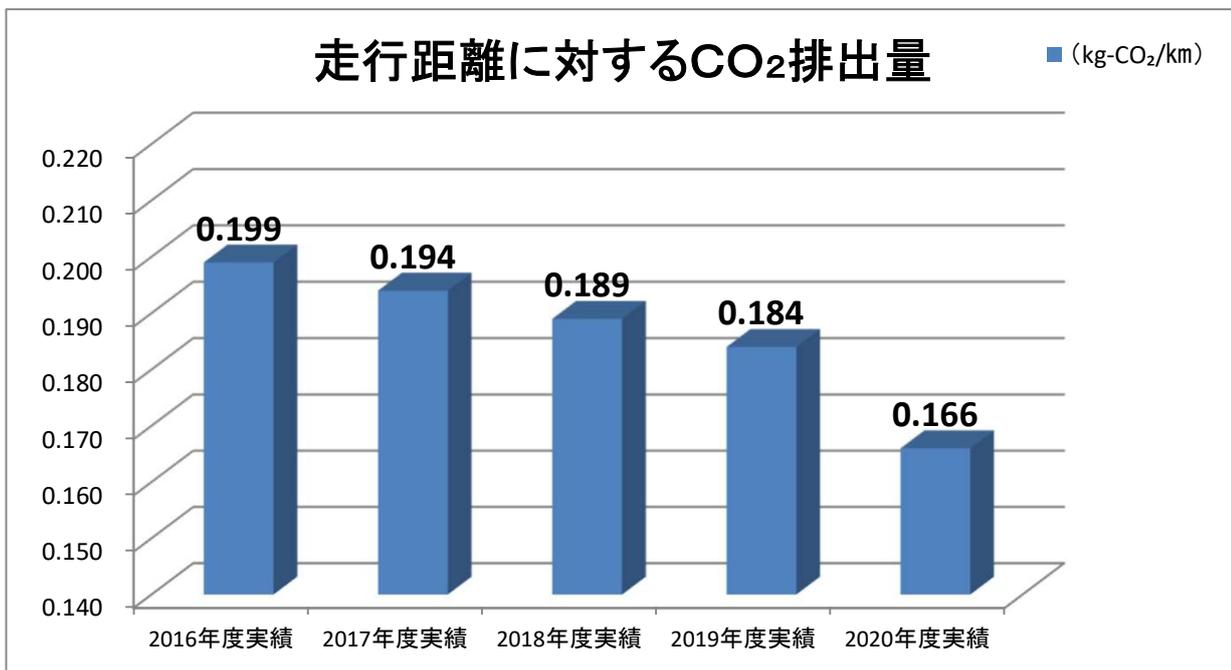
自動車・電力等消費による環境負荷の推移

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
CO <sub>2</sub> ガソリン (kg-CO <sub>2</sub> )	404,929	354,613	341,075	281,332	244,113
CO <sub>2</sub> 軽油 (kg-CO <sub>2</sub> )	53,855	49,908	49,298	36,909	25,944
CO <sub>2</sub> 電気/ガス (kg-CO <sub>2</sub> )	302,580	275,814	230,891	227,549	203,865
CO <sub>2</sub> 計 (kg-CO <sub>2</sub> )	761,364	680,335	621,264	545,790	473,922



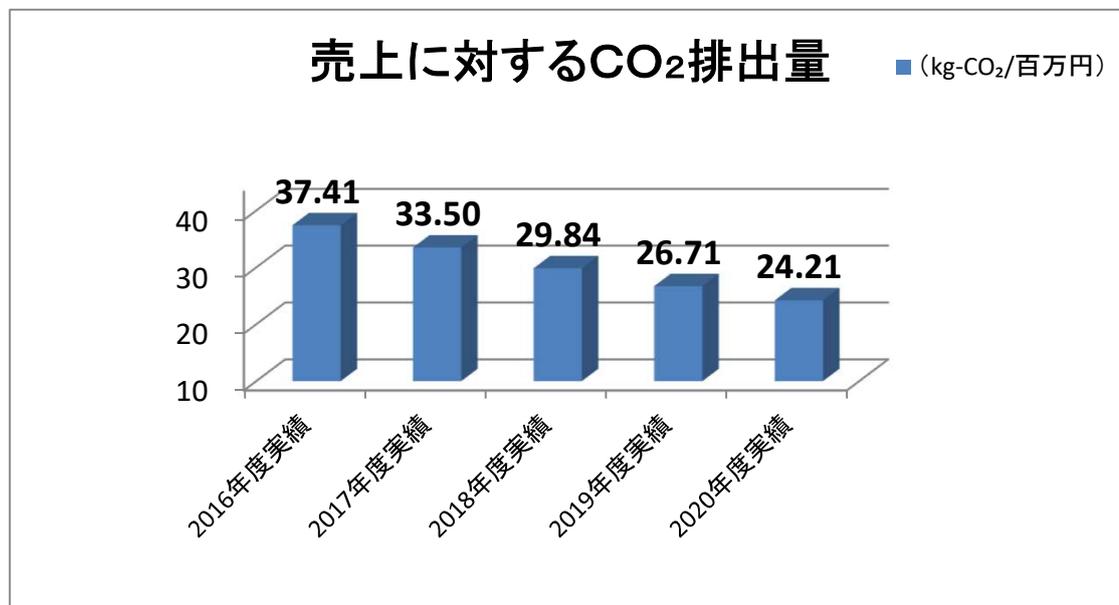
走行距離に対するCO<sub>2</sub>排出量の推移

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
(kg-CO <sub>2</sub> /km)	0.199	0.194	0.189	0.184	0.166



## 売上に対するCO<sub>2</sub>排出量の推移

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	37.41	33.50	29.84	26.71	24.21



## VI. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

### (1) 適用となる主な法規（関連する主な活動）

- ・自動車NO<sub>x</sub>・PM法(自動車排ガス中のNO<sub>x</sub>・PMの抑制)
- ・資源有効利用促進法(再生資源、長期間使用)
- ・毒物及び劇物取締法(保険衛生上必要な措置)
- ・廃棄物処理法（OA機器、産廃物の適正廃棄）
- ・フロン排出抑制法(エアコン等の適切な管理・点検・修理)
- ・消防法（防災訓練）

### (2) 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規制等の遵守状況の評価結果、環境関連法規制等は遵守されてきました。

なお、関係機関および近隣からの違反の指摘、訴訟等も過去5年間ありませんでした。

## Ⅶ. 代表者による評価、見直しの結果および次年度の方針・目標

1) 2020年度の環境目標(CO<sub>2</sub>排出量の削減)は、自動車、電気/ガスいずれも目標を達成した。

- ① CO<sub>2</sub>排出量の削減目標設定を自動車と電気/ガスで区分し、自動車は走行距離1km当りの排出量を2019年度の実績を基準として1%削減目標とし、目標を達成した(14.3%減)。

また、燃料10あたりの走行距離は14.12kmとなり、前年の11.80kmから+2.32km(19.7%増)となった。

目標達成要因：新車切替に際してハイブリッド車を追加導入し燃費の向上を図ったことや、公共交通機関、レンタカー、カーシェアリングを活用することによる社用車の削減実施(前年末比3台減少)および社用車の使用(走行距離)が減少した結果、目標を達成。

次年度も、前年度実績比1%削減することを目標とする。

社用車の新車切替計画に沿って、次年度以降も車両の入替えを進めていく。

新車切替に際しては、次年度もハイブリッド車を導入し燃費の更なる向上を図る。

(次年度は、新車切替18台中12台をハイブリッド車とする予定)

また、今後も事業所移転・統合に際して、公共交通機関やレンタカー、カーシェアリングの更なる利用を促進することにより、社用車の台数および使用削減を進める。

- ② 電気/ガスも同様に2019年度のCO<sub>2</sub>排出量実績を基準として1%削減目標とし、目標を達成した(9.5%減)。

目標達成要因：室内温度管理の徹底、使用しない箇所の消灯励行、残業管理やノー残業デーの徹底などの諸施策により使用量を削減することで目標達成。

次年度も、自動車同様前年度実績比1%削減することを目標とする。

事業所移転・統合の際は、照明のLED化、節電型機器の導入を進め省電力化を推進する。

2) 廃棄物量の削減および再生率の向上

- ① 廃棄物総量は前年度実績比1%削減目標に対して22.3%減少し目標達成した。

次年度も、前年度実績比1%削減することを目標とする。

各部署で発行・管理する通知、通達文書、製品の取扱説明書などをグループウェアにより共有化すること、また回覧・承認を要する書類をワークフローにより効率化、ペーパーレス化することで、より一層の紙媒体の削減、廃棄物の削減を推進する。

文書保存期間の見直し、明確化を行うことで不要文書の廃棄を促進し、保管文書のスリム化を図る。

- ② 再生率は2019年度実績維持・向上に対して9.6%(7pts.)減少し目標未達成。

再生率の目標未達成原因：廃棄物総量は減少したが、再生廃棄物が非再生廃棄物よりも多く減少したため再生率が減少した。

次年度も、前年度実績(66%)を維持・向上することを目標とする。

紙類、ペットボトル、その他の廃棄物について、分別を徹底し可能な限り再生廃棄物として排出し、非再生廃棄物の排出量を削減して再生率の向上を図る。

### 3)水使用量

2019年度実績維持・削減の目標に対して1.9%減少し、目標達成。

各事業所において節水の徹底図った結果、目標を達成した。

次年度も、前年度実績（2,991m<sup>3</sup>）を維持・削減することを目標とする。

### 4)事業活動における環境負荷の削減

年度末在庫月数は、目標とした在庫月数(3.7±0.3か月)に対して3.8か月となり目標達成。

次年度は、柏工場の移転作業完了したことから前年度実績から▲0.3か月(3.5か月±0.3か月)とし、適正在庫の維持、過不足発生の防止を目標とする。

物流の改善を目的とした以下の取組みを、次年度も継続実施する。

過剰、長期、不良在庫の発生防止や誤出荷、誤ピッキング防止のため、サブ棚を統一することなどにより無駄が生じない体制を整備し、継続して取組む。

作業動線に基づく倉庫内レイアウトの見直し（作業の効率化、生産性向上、動作のムダの削減）。

QRコードを活用したトレーサビリティ向上などの合理化、効率化に向けた施策の検討。

### 5)環境経営活動への取組み強化

企業収益と環境保全の両立を目指した『環境経営活動』を意識した活動を強化して、以下に掲げる項目にも注力する。

#### ①経営資源(資金)の投入

車両(燃費向上)、照明(節電)、事務機器などの設備導入(業務効率化)にあたっては、環境改善を考慮した設備の導入を検討し推進する。

#### ②余剰スペースの活用

事業所において、製品の在庫は最小限としており、余剰スペースが生じるところもあるため、スペースの有効活用を検討する（文書保管など）。

また、事業所移転などの際には、余剰スペースを作らないようにする。

#### ③新型コロナウイルス感染症対策の徹底

新型コロナウイルス感染症の流行が収まらないため、従業員の感染リスクを低減するための対策を引続き実施、徹底する。

具体的には、

- i) テレワークや時差出勤体制の継続実施。
- ii) 職場における感染防止対策の周知徹底（入社時の体温チェック、入室時の手の消毒、ドアノブなど手を触れる箇所の定期消毒（業務時間中に複数回）、マスクの着用、座席（作業デスク）の分散、間仕切り板の設置、など）。

以上